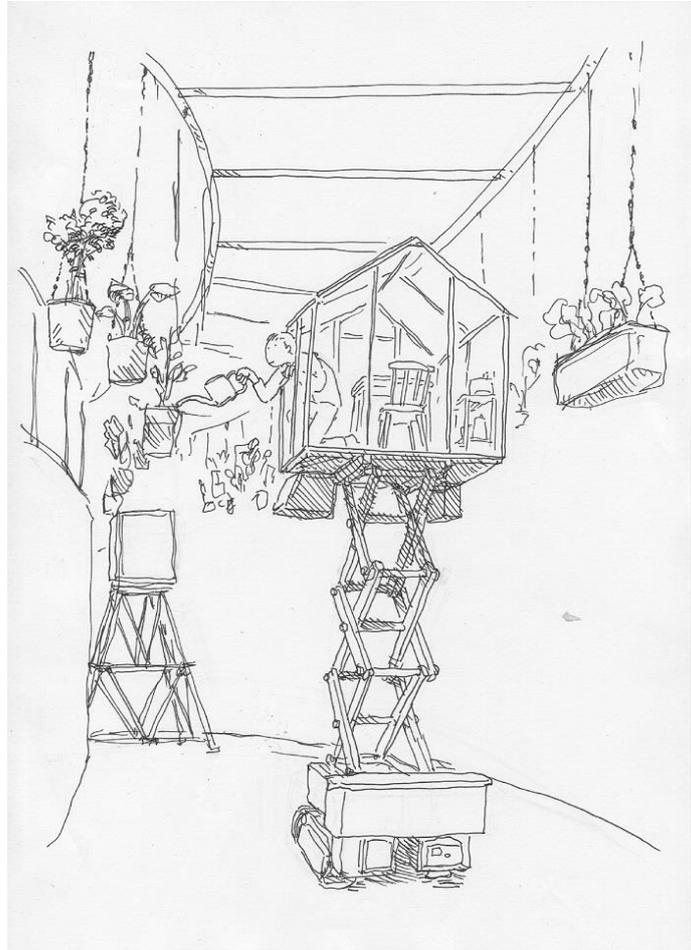


國府理展 相對温室



展示ブランドローイング

展覧会名	こくふおさむ 國府理展	そうたいおんしつ 相對温室
日時	4月26日(土)ー6月22日(日)10:00ー18:00 会期中無休、入場無料	
会場	国際芸術センター青森 ギャラリーA、B	
アーティスト	國府理 (こくふ・おさむ)	
主催	青森公立大学国際芸術センター青森	
助成	公益財団法人朝日新聞文化財団	
協力	キクイパッキン株式会社、サトウモーター有限公司	

【お問い合わせ】

青森公立大学国際芸術センター青森

〒030-0134 青森市合子沢字山崎 152-6

TEL: 017-764-5200 FAX: 017-764-5201 ホームページ: <http://www.acac-aomori.jp>

担当学芸員: 近藤由紀 yukikondo@acac-aomori.jp

國府理さんは自動車や自転車、パラボラアンテナなどを使った、まるで工場で機械を改造したかのような作品を多く制作しており、本展でも移動する家、鉄塔に支えられた水槽、冷凍庫になった車など、様々な「メカ」が登場します。

更に作品のいくつかでは、水槽に水草や小魚が放たれたり、車がひっくり返されて植物が植えられたりと、「機械」と相反する「自然」が組み込まれています。例えば、ギャラリーAでは天井付近にプランターを吊るし植物を植え、車輪とエンジンが付いて水平移動と上下昇降が可能な小さな家のような作品《未来のいえ》に乗った國府さんがそれら植物の世話をします。敷地内の森には、透明の壁に囲まれた小屋状の作品《Typical Biosphere》が設置されますが、これは周囲の森も作品の一部として取り込まれます。また、ギャラリーBにはエンジンを使って人工雨を降らせる車が登場します。

展覧会タイトルにもある「温室」は人工的に作られた小さな自然を意味していますが、小さな自然を内包する國府さんの作品はまるで、独立した生態系を生み出す科学実験の装置のように見えるかもしれません。しかし、一度でも生物を育てたことがある方なら思い当たるように、どんなに環境を整えようとも、生物が意図通りに成長を遂げるのかどうかは分かりません。人工物と自然が共存する國府さんの作品は、小さな一つの理想郷を表すように見えながらも、どんなに緻密に設計しようとも人間の力は自然の力に及ばないということや、人間が自然をコントロールしようとすることの傲慢さを暗示するようでもあります。

本展に出品される作品は実際に動かすことができ、会期中に國府さんがギャラリーに滞在している際は実演の機会も設けられます。大きな機械のような作品が動く様子は白昼夢のように見えるかもしれません。青森市郊外の森の中に現れる異次元の世界をどうぞお楽しみください。



《未来のいえ》2013年、320×200×200cm
温室、高所作業車、植物、水、他、撮影：表恒匡



《Parabolic Garden》2010、
パラボラアンテナ、鉄、土、植物、タイヤ、モーター、他
120×120×120cm Photo：豊永政史

【作家略歴】

國府理 (こくふ・おさむ)

- 1970 京都府生まれ
- 1993 京都市立芸術大学ソーラーカープロジェクト「Solar Power Lab」に参加
- 1994 京都市立芸術大学大学院美術研究科修了(彫刻専攻)
- 1999 ソーラーカーによるアメリカ大陸横断旅行「HAAS Project」に参加

主な個展

- 2013 「國府理 未来のいえ」西宮市大谷記念美術館、兵庫
- 2012 「國府理展 水中エンジン」アートスペース虹、京都
「國府理 ここから 何処かへ」京都芸術センター、京都
- 2011 「KOKUFUMOBIL：回転する歯車は並行世界の夢を見るか？」チカエコダ日本大学芸術学部江古田校舎、東京
- 2010 「國府理展 Surreal Instruments」アートスペース虹、京都
「國府理展 Parabolic Garden」アートコートギャラリー、大阪
- 2009 「ACG eyes 3：國府理 ROBO Whale」アートコートギャラリー、大阪
- 2008 「國府理展」アートスペース虹、京都
「國府理展 move to moving」松本市美術館、長野
- 2007 「Premonition – KOKUFUMOBIL 國府理展」大阪成蹊大学芸術学部 space B、京都
- 2006 「國府理展 KOKUFUMOBIL」アートスペース虹、京都
- 2005 「國府理展 KOKUFUMOBIL」アートコートギャラリー、大阪
- 2001 「KOKUFUMOBIL 仮想過去→未来」前橋市旧消防庁舎跡地、群馬
- 1994 「KOKUFUMOBIL」アートスペース虹、京都

主なグループ展、ほか

- 2013 「六甲ミーツ・アート芸術散歩 2013」六甲山カンツリーハウス、兵庫
「あいちトリエンナーレ 2013」中央広小路ビル、愛知
- 2012 「福島現代美術ビエンナーレ 2012」福島空港、福島
- 2011 「TRA：Edge of Becoming」パラッツォ・フォルチュニー、ヴェネツィア／イタリア
- 2010 「六甲ミーツ・アート芸術散歩 2010」六甲ガーデンテラス、兵庫
- 2009 「エコ&アート 近くから遠くへ」群馬県立館林美術館、群馬
「神戸ビエンナーレ 2009 招待作家展 LiNK しなやかな逸脱」兵庫県立美術館、兵庫
- 2008 「大阪・アート・カレイドスコープ 2008」東横堀緑道、大阪
「街じゅうアート in 北九州 2008 ものづくり・ものアート vol.2」リバーウォーク北九州、福岡
- 2007 「裏・アートマップ 2007」京都芸術センター、京都
- 2006 「取手アートプロジェクト 2006」旧戸頭終末処理場、茨城
- 2005 「art – life vol.4 大巻伸嗣／國府理展 PARADICE TIME」スパイラル、東京
- 2004 「new letters from kyoto 西山祭典 2004」京都大学桂キャンパス、京都
- 2003 「Art Court Frontier 2003」アートコートギャラリー、大阪
- 2002 「第9回六甲アイランド現代アート野外展」六甲アイランド、兵庫
- 2001 「第16回国民文化祭ぐんま 2001」CAMP 前橋芸術会館、群馬
- 2000 「第7回画廊の視点 2000」大阪府立現代美術センター、大阪
- 1998 「Keep moving／心の旅」愛知芸術文化センターアートスペース X、愛知
- 1997 「第4回六甲アイランド現代アート野外展」六甲アイランド、兵庫
- 1993 「conversion table」名古屋市市政資料館、愛知

【関連イベント】

■オープニング&アーティスト・トーク

作品や制作のお話を伺います。

4月26日(土) 14:30-15:30

会場: 展示棟ラウンジ、ギャラリー

※申込不要、どなたでもご参加いただけます。参加希望の方は開始時刻にラウンジにお越しください。

■ワークショップ「森の温室で一夜を過ごす」

ACACの森の中に設置された作品《Typical Biosphere》の中で一晩過ごします。夕暮れから深夜の暗闇、そして夜が明けるまでを、透明の屋根と壁に守られた小さな温室のような作品の中で過ごして森や自然の様子を体験してみます。夏至に近い1日を、自然の中で過ごしてみませんか。

1回目: 6月7、8日(土、日)(申込締切5月30日)

2回目: 6月20、21日(金、土)(申込締切6月13日)

各回とも19:00~夜明けまで

定員: 各回6名(要申込/応募者多数の場合抽選)

対象: 18歳以上

参加費: 1,000円

持ち物: 寝袋、ヘッドライト、夜食(必要な方)



《Typical Biosphere》2009-2010、
ポリカーボネート板、鉄、土、樹木、メタルハライドランプ、他
514×500×500cm、Photo: シェヴァーブ・トム

■レギュラーツアー

5月6日(火・祝)、5月31日(土) 14:30-15:30

学芸員の説明を聞きながら展覧会を体験します。

■発見ツアー

5月17日(土) 14:30-15:30

参加者のみなさんでお話しながら展覧会を体験します。

※申込不要、どなたでもご参加いただけます。参加希望の方は開始時刻にギャラリーA受付にお越しください。

■開館時間特別延長

6月7日(土)、20日(金) 19:00まで開館